

小学校だより

第293号

杉並区久我山4-29-60

立教女学院小学校

<http://es.rikkyojogakuin.ac.jp/>

続・実りの秋

教頭 上川 恵

10月の中旬を過ぎるとグッと気温が下がります。小学校ではエアコンの設定を暖房に切り替え、寒さに備えます。色付いた葉、銀杏、松ぼっくり、落ち葉を踏む乾いた音、赤いハナミズキの実を拾う子どもたち……秋の立教女学院も趣があって好きです。

この季節になると必ず思い出す歌があります。

「♪いも (いも) くり (くり) なし (なし) かき (かき) ぶどう (ぶどう) りんご (りんご) まつたけ (まつたけ) ♪」
「たべもの列車」という幼児向けの歌で、保育園や幼稚園でよく歌われています。サビの部分のリズムが良く、歩調にぴったり合うので、道を歩いているといつの間にか心の中で歌っている自分がいます。2～3歳の小さな子どもたちが大きな声で「まつたけ まつたけ」と歌っている姿がなんとも可愛くて、前職時代、秋になるとよく使っていたお気に入りの教材でした。

実りの秋は子どもたちにとっても実りの多い季節。さまざまな行事を通して豊かな心を育てていきます。保護者の皆さまにおかれましても、秋を愉しみつつ、子どもたちの成長を見守っててください。

雨の合間の晴天となり、予定通りに運動会を実施することができました。保護者の人数を制限させていただいたり、控室で待機していただいたり、密を回避する対策にご協力いただきありがとうございます。3年振りのほぼフルバージョンの運動会は、見応えある熱い戦いとなりました。本校の子どもたちは、ここぞという時に頑張れる子どもたちです。真剣な表情で競技に取り組む姿、自信に溢れたダンス表現に胸を打たれました。加えて、頑張っている仲間に惜しめない拍手と声援を送っている姿にも感動させられました。1年生のダンスでは、キュートな妹たちの姿に「かわいい〜♡」と声をあげ拍手する上級生の姿がありました。大勢の仲間の見守りのうちに成長があり、成長を喜んでくれる仲間がいる、このような家族的な校風を、この先もずっと守っていきたいと思いました。

10月27日は、学院創立145周年記念礼拝が行われました。以前は各校の代表児童・生徒のみ参加していた礼拝ですが、今年から全校児童・生徒が参加出来るよう、実施形態を変更しました。聖マーガレット礼拝堂で行う礼拝を、講堂や聖マリア礼拝堂、教室などに配信し、同じ時間に全員で感謝のお祈りをささげることができました。

中高のマーガレット祭は、3年振りに外来者を受け入れる形で実施されました。内部生の来場日は28日限定でしたが、お出かけできたでしょうか？聞くとところによると、実行委員の高校生が、内部小学生に是非来てもらいたいと準備を進めてくれたそうです。小中高の一貫教育がこのように学院の行事の中で意識され、小学生にとって、近い未来の自分をイメージ出来る環境は素晴らしいことだと思います。

学院のキャッチフレーズ「学びの先に、未来を描ける人に。」を体現しようと励んでいる中高生の姿が、小学生にとって何よりの刺激で憧れで目標となります。一貫校ならではの環境作り、プログラム作りを今後の課題とし、小学校の子どもたちが未来を描ける環境を整えていきたいと思ひます。

《 芸術鑑賞会 》

今年の芸術鑑賞会は、女性和太鼓チーム「太鼓集団・婢弥鼓」のみなさんをゲストにお迎えし、和太鼓の演奏を聴きました。

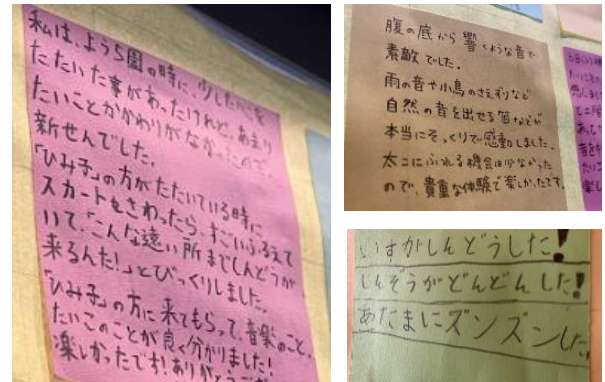
鑑賞会当日、チャペルの舞台上に並ぶさまざまな種類の和太鼓を見て、「どんな響きが聴けるのかな」と気持ちを高めながら演奏が始まるのを待ちました。演奏者4名の方々の紹介が終わると……、ドーン!! 一気に大きな太鼓の音がチャペルに鳴り響きました。そこから始まった大迫力の和太鼓演奏。踊るように演奏する姿に、子どもたちはどんどん引き込まれていきます。体の芯まで届くような力強い音の響きが、会場全体を包んでいるかのようなようでした。2メートルを超える大きな桶太鼓や、5、6台並べられた



長胴太鼓、締め太鼓や竹太鼓など、たくさんの種類の太鼓に加え、篠笛や箏など様々な和楽器を用いた演奏は、単に耳で楽しむだけではなく、撥^{はち}使いや体の使い方など、目で楽しむこともできる音楽でした。

演奏会の中盤には、実際に楽器を演奏する時間も設けていただき、婢弥鼓のみなさんの口三味線に合わせて、大きな太鼓の本物の音を体感することもできました。

普段はなかなか聴いたり触れたりする機会の多くはない、和楽器の魅力を存分に味わうことのできたひと時となりました。



《 アイメイト協会による授業 3年生 》

アイメイト候補犬が学校に来るようになって、知りたいことは？

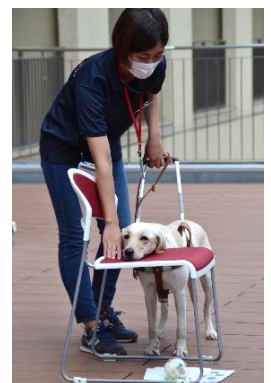
→ どんな訓練をしていて、どんなことが出来るのか見たいです！



「Door」の指示で扉を鼻先で示す犬

そんな希望が子どもたちから多く出ました。そこで行われたのが視覚障がい者の方が、安全に自由に歩けるようになるための訓練実演。まずは、3年生に授業をしていただきました。

アイメイト協会の活動について教えていただいた後、指示に従う基礎訓練 (Sit・Down・Come など) から始まり、誘導訓練を見せていただきました。



「Chair」(を探して!)
(犬: 椅子はここにあるよ!)



心からほめて気持ちを伝えます
(ご褒美の食べ物とは与えません)

“落とし物を拾う”では、教えられたばかりで犬がすぐに出て来るようになる様子にびっくり! 訓練中は、犬の顔つきが違うように感じます。犬が頑張っていることや、指導員の方がしっかりほめて心を通わせている様子が伝わってきます。

この後高学年では、目隠しをしてアイメイト候補犬と一緒に歩くことや視覚障がい者の方へのわかりやすい説明の仕方などを体験します。



段差は止まって知らせます

《 運動会 》

1年生にとって、初めての運動会。運動会の説明をすると、「お母さんたちにダンスを見てもらえるの?」「えっ!6年生のお姉さんたちにも!?!」と大興奮。見てくださる人全員を笑顔にすることを目標に、ダンスの練習を始めました。お天気の都合で、なかなか外では練習できず、不安になる大人をよそに、「わたしたち、バッチリ!」「早く見てもらいたいなあ。」と、いつでも自信たっぷりの1年生でした。

当日は、大歓声の中で、ますます張り切って踊りきりました。キラキラの海の世界のように、1年生の笑顔も輝いていました。



3年生は、小学校に入学して以来、初めてフルバージョンで行う運動会をむかえました。日常の学校生活をダンスで表現し、大好きな休み時間の様子は自分たちで動きを考えました。体の動きだけで、何をしているかを伝えるために、ダイナミックに動きました。学校生活の楽しさを伝えるために笑顔を意識したり、自分たちでランドセルを作ったり……短い時間の中で集中して練習に取り組みました。3年生らしい元気よさ、ダイナミックさを表現しました。



6年生は、2020年度から自分たちでダンスを作って発表する創作ダンスに取り組んでいます。70人みんな意見を出し合い、ダンスリーダーがダンスを考え、ダンスを教え、みんなの意見を取りまとめて、1つのものを作り上げていきます。

意見がまとまらなかつたり、ダンスが揃わなかつたり、大変な時期を乗り越えての本番。見ている人たちからの拍手や歓声に、自然と笑顔になり、練習以上のものが発揮できたように感じます。今の6年生らしい創作ダンスに自分たちも大満足でした。



2年生は、クラシック音楽に合わせておもちゃの兵隊のダンスに挑戦しました。

本物のおもちゃの兵隊に見えるように、背筋を伸ばして腕を広げたり、踊りを揃えたりすることを意識したりしながら練習を重ねました。

運動会当日は、緊張しつつも見に来てくださったお家の方に最高の笑顔をお届けすることができました。

自分で動きを考えることは難しいことではありますが、友達と協力し合いながらより良いものを生み出すことの大切さを学びました。この学びを生活の中でも生かしてほしいと思います。



4・5年生は、北海道に伝わる民謡をもとにしてつくられた『南中ソーラン節』に挑戦しました。

黒のはっぴには、ソーラン節にかける想いを表す漢字と、うねる大波をダイナミックに表現!作る過程も楽しみました。



当日は、2学年合同ならではの迫力や、高学年らしい大きな動き、キレのある演技を表現できたと思います。

体育科より

予定よりも30分遅れになったものの、3年ぶりに通常のプログラム(保護者・教職員競技を除く)で開催することができた今年の運動会。いかがだったでしょうか?

特に6年生は小学校生活最後の運動会ということもあり、最高学年としてさまざまな場面で大きく成長した姿を見せてくれました。運動会直前は天候に恵まれず、グラウンドが使用できない日々が続きました。しかし、どの学年も表現(ダンス)、競技、短距離走などに精一杯取り組むことができ、思い出に残る運動会になったことと思います。

赤組優勝おめでとうございます!